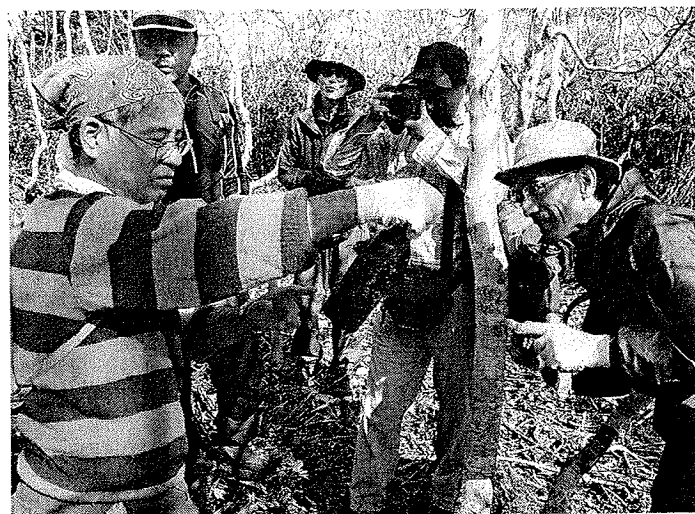


散策 深まる秋の紅葉を眺めながら道幅の狭い山道を1列になって歩を進める参加者

9年)に旧駅通が火事
で焼失したため建てら
れた新駅通の跡地を見
学。41年(昭和16年)
に廃止されたが、今も
当時のビール瓶や鍋な
どが散乱している。さ
らに進むと左手に木々
の間から日本海が見え
た。旧駅通跡地から新
駅通跡地まで約2.5キ
の道沿いにはかつて使
われた電信柱が点在し
ていた。

増毛山道は江戸時代
末期に造られ、昭和20
年代まで使われてい
た。参加者は「先祖が
造ったものへの熱いロ
マンに突き動かされま
すね」と話していた。



発見 新武好駅跡地でビール瓶を見つけた当時の生活に思いをはせる参加者



現存 道沿いに点在する電信柱。100年以上前に増毛山道に電話線が敷設されたことを今に伝える

祖先の息づかい体感

40人、増毛山道を歩く

【増毛】かつて増毛と浜益を結ぶ交易路だった「増毛山道」(27・8キ)。復元に向けて伐採作業の終了した増毛側の伐採跡地で16日に見学会が開かれ、参加者は歴史のロマンに思いをめぐらせた。

(東久保逸夫、写真も)

復元に取り組むのはNPO法人「増毛山道の会」。会員や地元行政関係者、旅行者ら約40人が参加。作業を終えた岩尾分岐から別荘までの11.2キを中心とする約8キを、約5時間かけて歩いた。道幅は約2.5キ。岩尾分岐付近をスタート。交易の要所だった旧武好駅跡地を抜け、天狗岳(標高944.4キ)のふもとを通る。同岳近くの約2.5キの地点では、1876年(明治